

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
61

2020

胸部疾患診療の グローカルな展開に期待を寄せて

DOCTOR'S VOICE 01 最先端技術とダイバーシティに根差した医療の融合

DOCTOR'S VOICE 02 患者さんそれぞれの生き方に寄り添う医療体制の提供

DOCTOR'S VOICE 03 実践を通した地域救急医療の人材拡充、そしてグローカルな全人医療へ

DOCTOR'S VOICE 04 胸部悪性腫瘍の地域診療と呼吸器内科専門医育成に挑む

STAFFS VOICE 01 大きな責任とやりがいで医療を支える縁の下の力持ち



新任教授紹介

最先端技術とダイバーシティに根差した医療の融合

放射線医学講座 教授 城戸輝仁

放射線科は病院の中央診療部門に属し、①画像診断、②IVR（インターベンショナル・ラジオロジー）というカテーテルを用いた血管内治療）、③放射線治療（がんに放射線をあてることにより、がん細胞のDNAに損傷を与え治療します）の三本柱からなっています。当院には世界トップレベルの診断治療機器が設置されており、来年度には新しい放射線治療装置も導入されます。

私の専門は心臓の画像診断であり、拍動する心臓を鮮明な画像として撮影し、その形態や動き、血液の流速情報などを定量解析（画像情報を数値化）するという技術を研究しています。画像情報を数値化することで客観的な診断が可能となりまし、今後は画像から導き出される数値の意味をAIに学習させることで、将来起こりうる様々なリスクの予測を行い、診断・治療に生かせるようになると考えています。

また今年度からは女性医師に医局長を務めて頂くなど、積極的な女性医師の活用にも取り組んでいます。最先端技術だけが日々進歩するのではなく、医療者が機械や技術を使いこなせるように知識を身につけ、様々な視点から患者さんの多様な要望に応えられるチームを創りたいです。



PROFILE

きどてるひと◎2001年愛媛大学医学部卒業。日本医学放射線診断専門医、日本核医学会専門医、日本脈管学会認定脈管専門医等の資格を所持。2020年4月より現職。夏は海でジェットスキー、冬は山でスキーニー、年中スポーツを楽しむ。

新任教授紹介

患者さんそれぞれの生き方に寄り添う医療体制の提供

医療情報学講座 教授 木村映善

医療情報学は非常に新しく、もとは医療工学の分野で医療機器の研究をしていましたが、専門性を高め、より広い範囲で医療に貢献するため、専門性を高めています。現在の医療情報学の三本柱は、病気の情報・医薬品の処方・ゲノム情報です。これからの時代は医療機器や医薬品に並んで「医療情報」も医療に大きく関わります。情報があることで、医療安全、院内連携、地域連携、最適な医療とのマッチングなど医療全体の質が向上します。しかし、日本では個人情報を含む情報提供に萎縮する傾向があり、データを十分に活用できる環境ではありません。また医療情報を扱うのに慣れていません。ですから学問として研究・啓発を率先して行うだけでなく、患者さんには情報に係るリスクを正しく理解してもらうことも必要です。また、医療へのAIの導入（臨床判断の支援）、医療政策や臨床研究に貢献するリアルワールドデータの分析、データサイエンスに関する人材育成等も進めます。疾患に合わせた分析・医療から、患者さんの個々の臨床に合わせた医療体制の提供を目指します。



PROFILE

きむらえいぜん◎1999年北海道大学医学部卒業、2003年愛媛大学大学院医学系研究科修了。愛媛大学医学部医療情報部助手、保健医療科学院の統括研究官を経て、2020年5月より現職。休日は子どもと一緒にアウトドアを楽しむ。

新任教授紹介

実践を通した地域救急医療の人材拡充、そしてグローバルな全人医療へ

地域救急医療学講座 教授
池田俊太郎

わたしの専門は、循環器内科の心血管インターベンション（カテーテル治療）で、血管からカテーテルを通し冠動脈や大動脈弁の治療を主に行っています。今後は大動脈弁以外の弁膜症など、構造的心疾患も治療のターゲットに広げようと考えています。

この講座で最も注力するのは地域医療の救急に携わる医師・研修医・学生の育成です。地域の基幹病院で、地域に根差した救急医療のトレーニング制度を中心に人的資源の拡充を図ります。市立八幡浜総合病院にはサテライトセンターがあり、そこで学生・研修医を対象に卒前・卒後教育を行っています。大洲・八幡浜圏域は県内で最も高齢化が進んでおり、実習を通して十分な経験を積むことができます。

当院の理念「患者から学び、患者に還元する」は医師としての私の座右の銘です。同じ病気を診察し、その本質に迫るという意味で都市部も地方も平等であり、場所は関係ありません。身はローカル（地域）に置きながらも、患者さんや病気をグローバルに（全体像として）診るというスタンスこそ地域医療では重要です。人材育成ではそうした医療の在り方も伝えていきたいです。

**PROFILE**

いけどじゅんたろう ◎小中学時代は今治市、松山東高校卒業後愛媛大学医学部入学。愛媛大学大学院卒業後は県立南宇和病院、市立宇和島病院と計17年間南予を中心に診療。東予で育ち、中予で学び、南予で仕事をした生粋の愛媛県人。2020年4月より現職。趣味は音楽鑑賞。

新任教授紹介

胸部悪性腫瘍の地域診療と呼吸器内科専門医育成に挑む

地域胸部疾患治療学講座 教授 野上尚之

わたしは16年間四国がんセンターに勤務し、肺がん等の胸部悪性腫瘍の治療を専門に行ってきました。当院で私に与えられたミッションは、①肺がんについて診断から治療までを地域で完結するモデルを作る、②呼吸器内科医の少ない愛媛において呼吸器内科専門医を増やす、の2点です。患者さんは高齢の方が多いため通院にご家族のつき添いが必要で、負担も決して少なくありません。中予に来なくとも各地域で診療ができれば本人と家族の通院等の負担が減り、より良い生活と治療の両立も叶います。関連病院の先生方と連携をとり、地域でがん診療を完結するモデルケース作りを今治市から始めました。将来は全県下で展開することが目標です。また、治療にあたってはその方が何を大切にされているかをヒアリングし、その方にあわせた治療のあり方を一緒にになって考えています。最後に、呼吸器内科では今年度から新規抗がん剤の開発治験や共同研究をいくつか始めました。一緒に3~5年先のミライの治療法を築きませんか？これを機会に若い先生方が呼吸器内科に関心をもってもらえば嬉しいです。

**PROFILE**

のがみなおゆき ◎1993年三重大学医学部卒業。2003年より四国がんセンターに勤務。日本内科学会指導医、日本呼吸器学会指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法指導医等の資格を有し、2020年4月より現職。趣味は高校時代から続けているバドミントン。

医療クラーク紹介

大きな責任とやりがいで医療を支える縁の下の力持ち

医療クラークチーム 医療事務補佐員 宮崎政代
医療事務補佐員 近藤公子

医療クラークは、看護師など他部門の医療従事者との連携を図りながら医師の事務作業をサポートします。医師が診察した結果や指示、処置をデータ入力し、書類作成などを行います。また診断時に必要な検査の手配、次回の予約管理と連絡、入退院時に必要な書類作成など幅広い業務を担っています。当院では診療科毎に複数の医療クラークが所属し、数人の小さなグループに分かれて業務にあたっています。患者さんの個人情報を扱い、検査や処置のオーダーなど常に正確性とスピードを要求され責任と緊張が伴う仕事ですが、その分やりがいに繋がっています。関連する部署のクラーク同士は仲が良く、「お互いさま」の気持ちで互いにフォローしあっています。患者さんとは「どうぞお大事に」「次回も気をつけて来てください」など不安を取り除けるような声掛けを心掛けています。産婦人科の杉山隆教授からは「医療クラークさんは、医師、看護職との連携がとても重要で、時には患者さんの情報に関し幅広くフレキシブルに対応いただき、感謝しています。我々のチームにとって必要不可欠な存在です。」といつも気にかけてもらっています。



PROFILE

写真右／みやざきまさよ©2011年10月から勤務。趣味は映画鑑賞、子どもと遊ぶこと。

写真左／こんどうきみこ©2010年10月から勤務。趣味はサイクリングとガーデニング。

小児科病棟にTシャツ贈呈



令和2年5月8日、男子プロバスケットボールチーム「愛媛オレンジバイキングス」より当院小児科病棟に入院する子どもたちと病棟スタッフに、Tシャツとポストカードが贈呈されました。当初予定されていた選手からの手渡しは新型コロナウィルスの影響により残念ながら中止となりましたが、病棟スタッフからTシャツを受け取った子どもたちは、嬉しそうに着替えるなど笑顔を見せっていました。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5225

小児科病棟に木工の写真立て贈呈



プロサッカーチーム「FC今治」より当院小児科病棟に入院する子どもたちと病棟スタッフに、木工クラフトの写真立てが贈呈されました。選手が手作りした木工クラフトは、小児科病棟で入院する子どもたちの回復を願う思いがこめられており、子どもたちの笑顔あふれる写真が飾られています。また、この写真立てはスタッフステーションに設置され、子どもたちやスタッフなどを温かく出迎えてくれます。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5225

編集後記

本号でご紹介いたします新任教授4名の専門のキーワードとして、「胸部疾患」、「地域医療」、「遠隔医療」や「人工知能」があります。ローカルで実践し、グローバルに発信する医療の展開に益々期待したいと思います。

また、顕微鏡の先の緻密な世界で活躍する形成外科女性医師、縁の下の力持ちであります医療クラークも紹介しております。

当院も新型コロナウイルスの影響を受け続けておりますが、これからも明るい話題を提供していく所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

広報委員会委員長 熊木天児

◎表紙：形成外科医の手術風景



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川454 ☎089-964-5111(代)
ホームページ <https://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>